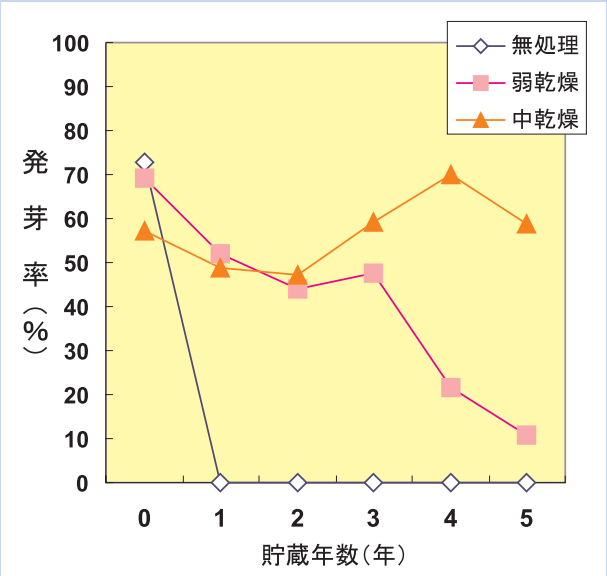
ブナ種子５年間の貯蔵に成功！

ブナは結実に豊凶があり、豊作年になるのは５～７年に１回程度と間隔が長いため、毎年、種子を一定量確保することが難しく、苗木を安定生産するうえでのネックとなっていました。

1997年から道南支場で開始した種子貯蔵試験の結果、乾燥・冷凍条件によって５年間貯蔵した種子でも高い発芽率（60%）を維持できることが明らかになりました（図－１、写真－１）。これは種子を採取した後、20℃の室温下で３日間自然乾燥させ、その後密封して－20℃の冷凍庫（家庭用冷蔵庫のフリーザーでよい）に保存するだけという、たいへん簡易なものです。



図－１　冷凍貯蔵したブナ種子の発芽率の推移
無処理（風乾なし：種子の平均含水率30%）、弱乾燥（10℃で３日間風乾：平均含水率11%）、中乾燥（20℃で３日間風乾：平均含水率６%）

ブナ種子の５年間の長期貯蔵が可能になり、計画的な苗木生産の可能性が高まったことは、郷土の森を地元産の苗木で再生させる上でも大きな前進であることは間違いないでしょう。林業試験場では、ホームページを通じて道南地方のブナ種子の豊凶予報も毎年発表しています。こうした情報と併せて、道産ブナの苗木生産に役立てていただきたいと考えています。

（道南支場）

写真－１　種子の発芽状況
左から冷凍中乾燥（５年貯蔵）、冷凍弱乾燥（５年貯蔵）、2002年産種子（貯蔵期間０年）